

# 今治 いまばり Towel & Towelling

VOL.5  
2 FEB. 2003

クローズアップ タオル人  
藤高一族  
タオル84年の名門企業

生活の中のタオル  
海外の暮らし ⑤ カナダ篇  
アウトドア派のカナディアン  
～相棒は小さなタオル～

二宮清純「夏の日の悪夢」

歩けば、風の色  
～タオルのふしぎな力～  
辰濃和男

私とタオル  
堀江謙一(海洋冒険家)  
「洗濯機のないヨット」  
東海林のり子(レポーター)  
「子供の大切なタオル」

タオルでひとやすみ

タオルのふるさと紀行  
「中世石造物との戯れ」  
～悠久のときをへて、  
石たちが語りかけるもの～

今治および芸予諸島の  
主なイベント・祭りガイド



© NAGANO HIDEKO



画家・絵本作家  
長野 ヒデ子



1941年 今治生まれ  
1978年 第1回日本的手作り絵本賞  
文部大臣賞受賞  
1994年 サンケイ児童出版文化賞受賞  
1997年 日本絵本賞受賞  
IBBY会員 日本国童書作家协会会员

今治および芸予諸島の  
主なイベント・祭りガイド

(平成15年4月～平成16年3月)

- ◆能島桜まつり  
4月5日(土)・6日(日)(予定) 宮窓町能島  
問い合わせ／宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
★能島村上水軍の本拠地であった能島は桜の名所として有名。満開の桜の下、水軍太鼓の披露やお茶会などが開かれる。
- ◆いまばり緑化フェア  
4月26日(土)・27日(日)(予定) 市民の森・フラワーパーク  
問い合わせ／今治市公園緑地課 TEL0898-36-1563  
★植木まつり、花苗・野菜苗の即売など、いろいろなイベントが開催される。
- ◆島四国へんろ市  
4月20日(日)～22日(火) 宮窓町・吉海町  
問い合わせ／宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
吉海町産業観光課 TEL0897-84-2111  
★大島全域を四国遍路にみたてた島四国八十八ヶ所を巡る。
- ◆第10回今治タオルフェア  
5月10日(土)・11日(日) テクスポート今治  
問い合わせ／四国タオル工業組合 TEL0898-32-7000  
★全国一のタオル生産地である今治のタオルメーカーが、一堂に集まって開催する即売会。各種イベントも開催。
- ◆バラ祭りよしうみ2003春  
5月17日(土)・18日(日) 吉海町バラ公園  
問い合わせ／バラ祭り実行委員会 TEL0897-84-4322  
★バラの美しい時期に開催され、朝市、バラコンテストなど各種イベントが盛りだくさん。
- ◆大山祇神社御田植祭  
6月4日(水) 大山祇神社  
問い合わせ／大山祇神社 TEL0897-82-0032  
★古式にのっとり、早乙女と田男が斎田に苗を植える厳粛な行事。一人角力の奉納、少年相撲大会も開催。
- ◆水軍レース大会  
7月13日(日)(予定) 宮窓町能島沖  
問い合わせ／宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
★復元した村上水軍の小早船で行うレース大会。レースの合間に水軍太鼓や舞踊などが披露される。
- ◆三島水軍鶴姫まつり  
7月20日(祝) 大山祇神社から宮浦港までの参道  
問い合わせ／大三島町商工会 TEL0897-82-0795  
★鶴姫や水軍の武者に扮し、華麗な時代行列を繰り広げる。沿岸馬ラースなども開催。
- ◆サマーフェスタinかみうら2003  
7月27日(日)または8月10日(日)(未定) 多々羅総合公園・戸板海岸  
問い合わせ／上浦町産業観光課 TEL0897-87-3000  
★立て干し網を中心に、歌謡ショーやシーサイド市、釣り堀などを開催。花火大会でフィナーレを迎える。
- ◆今治市民のまつり・おんまく  
8月2日(土)・3日(日) 今治港周辺・広小路・中心商店街  
問い合わせ／今治商工会議所内今治市民のまつり振興会 TEL0898-23-3939  
★チームごとの自由な振り付けが楽しいダンスパリサイ、木山音頭、綾ぎ獅子、花火大会などで盛り上がる。
- ◆はかた夏祭り  
8月14日(木) 伯方S・Cパーク  
問い合わせ／伯方町商工観光課 TEL0897-72-1500  
★花火大会、盆踊り、夜店などでぎわう伯方の夏の一一大イベント。
- ◆てんてこ  
8月15日(金) 魚島村役場  
問い合わせ／魚島村教育委員会 TEL0897-78-0011  
★刀と扇子を持って扮した一団が東西にわかれ、鉦や太鼓のはやしで中央に練っていく勇壮な伝統行事。
- ◆今治せんいまつり2003  
10月4日(土)・5日(日) 今治地域地場産業振興センター  
問い合わせ／今治地域地場産業振興センター TEL0898-32-3337  
★デザインコンクール、タオルや特産品などの展示即売を行う。
- ◆第11回今治タオルフェア  
10月25日(土)・26日(日) テクスポート今治  
問い合わせ／四国タオル工業組合 TEL0898-32-7000  
★全国一のタオル生産地である今治のタオルメーカーが、一堂に集まって開催する即売会。各種イベントも開催。
- ◆いきな島一周マラソン大会  
3月第2日曜 生名島全島  
問い合わせ／いきな島一周マラソン大会実行委員会(生名島役場内) TEL0897-76-3000  
★生名島を舞台に、ゆっくりマラソンを楽しむ大会。3km、5km、10kmのコースがある。

※平成15年2月調べ

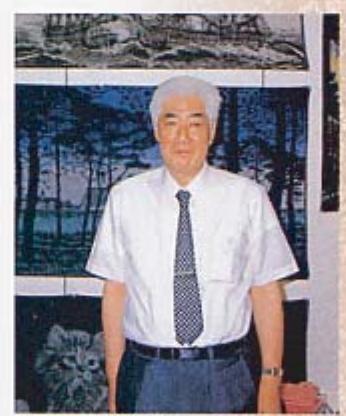
本紙に関するご意見・ご要望がありでしたら事務局までお寄せください。

発行日／2003年2月 発行／株今治織繊リソースセンター  
編集運行人／東洋活性化委員会 委員長 吉崎 弘 監修／四国タオル工業組合 構成／ケーラーリップ、えひめビング新里社 印刷／セキセイ株式会社

藤高一族  
ふじたか

# タオル84年の名門企業

「売り家と唐様で書く三代目」とは、人口に膾炙した江戸川柳の傑作であるが、それとは正反対に当地・今治において創業以来連綿として五人の社長が社業をつぎ、名門の名に恥じない地位と業績を築き、人材育成にも力を注いでいる企業がある。(株)藤高がそれである。



藤高 豊(3代目)



藤高 薫(2代目)

クローズアップ  
タオル



勲四等 瑞宝章を受章 藤高 豊(初代)

初代・藤高豊作は、明治十八年に生まれた。今治が綿織物産地として、全国的に名を馳せてゆく時期であった大正八年に、当時としてはまだ将来への展望を見えていないタオルに自らの生涯を懸ける意気込みでもって新しい工場を設立した。その時、豊作は三十四歳。

他家より養子に入ったという立場が、創業の決意を一段と強いものにしたことは想像に難くない。

戦前のタオル搖籃期を代表する人物を挙げよと言われば、まずは中村忠左衛門と藤高豊作の二人であろう。中村は藤高より三歳年上であり、つぎつきと新織方法を発明して、今治タオルの発展に技術面で大いに貢献したといえよう。

のこした。事業家としての本分を最後まで貫き通した硬骨漢だった。

豊作は妻・ツル枝との間に四男一女をもうけたが、長男は不運にも日中戦争で戦死。社業は弟である薰、豊、耀の順序で継承され、今治を代表する企業として伸展して行つたのだが、どうした宿縁か、三人ともに最も脂ののった年齢に至ると急逝の不幸にみまわれた。

その中で、昭和三十年に就いた三男の豊作は特に記憶に残る逸材だった。彼にまつわるエピソードは実に豊富で特に異色なのは、彼が大学生だった頃の話。文学青年だった彼は、当時文芸評論家として人気ナンバーワンだった小林秀雄の家に自分の原稿を直接持ち込み批評をあおいだという。期待したその返事は、「君はもう少し日本語を勉強しなさい。」とのキツイ文面で、その一言で彼は作家志望を断念したのだという。

豊は昭和六十一年に四国タオル工業組合の理事長に就任したが、翌年の九月に急死する。その理事長時代に、彼は次のような文章を遺している。

「二十一世紀に向つて生きてゆくのは大変だと思います。技術の発達で、暮らしにも革命が起こってくるでしょう。これは単に便利になるとか、快適

藤高豊が若い後継者たちに託した夢は、裏切られることなく、実現の道を歩んでいるといえよう。

豊が十六年前に、予言したように、業界はイバラの迷路に入りこんでいるが、近年、意欲を持つ経営者たちによって新しい顧客のマーケットが開拓されており、雪を割つて新芽が芽吹きはじめている。

現在の(株)藤高は、薦の長男である豊文社長によって新しい発想での事業展開がなされ、親子孫の三代にわたって、業界のトップリーダーとしての手腕が如何なく発揮されている。名門企業としての底力に業界の熱い視線がそそがれている。

かの問題ではなく、価値観が変わってしまうこと



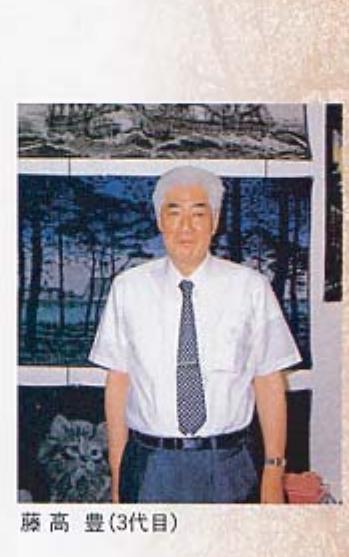
現在の本社工場



昭和45年当時の本社工場

に寄与した人物だが、経営手腕に秀でていた藤高は、中村と二人三脚でもって業界を牽引し、設備の増進や流通形態に新軌軸を開いた。そして昭和十五年、業界の奥原をになつて、今治タオル工業組合の理事長に就任。翌年には日本タオル工業組合の四国支部長を歴任して、山積する重要課題に果敢にとりくんだ。

それはトップリーダーとして模範的姿であると称えられ、歴代屈指の評価を今日受けている。



藤高 豊(3代目)

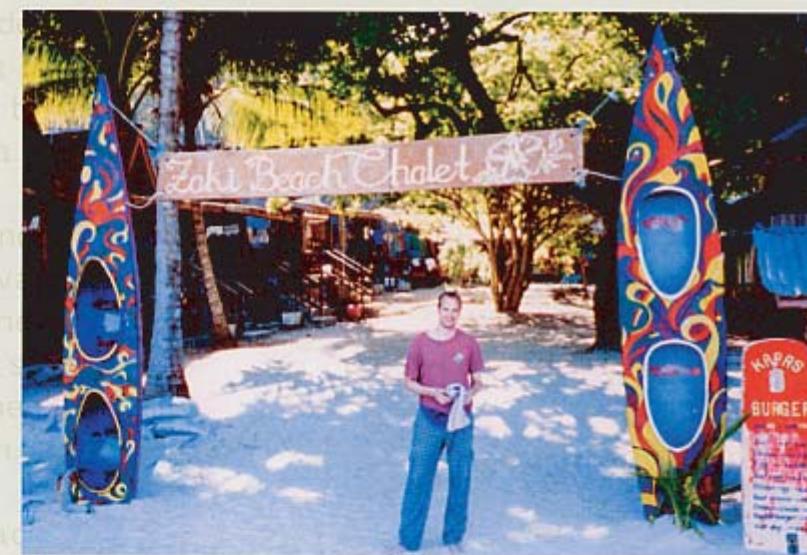


藤高 薫(2代目)

# アウトドア派のカナディアン

相棒は小さなタオル

ジェフ・グリーン



As a Canadian living in Japan I'm often reminded how different I am. It's sometimes hard to accept, coming from a country with a mixed population, just how different I appear to be to everyone else. I had thought, when I first arrived (and quite naively I now suppose), that I could help blur the line between my culture and Japan's. To show how our differences pale in comparison to our similarities, I realize now how resoundingly shared we are. When we travel, our approach in my time here has been to embrace it, to accept it, to allow us to get to know it, to cherish what we have in common, and to explore the differences. It's through this openness that we as people can learn from each other. Our cultures have much to offer, and when we learn about them, we can appreciate their uniqueness. This is the beauty of travel, and it's something that we as people have the opportunity to experience.

私は現在、42歳ですが、愛媛の八幡浜市に18年間、東京には24年間住んでいます。もう、東京での生活の方が長くなりました。しかし、どちらが住みやすかったかといえば、これは言うまでもなく八幡浜の方です。海あり山あり川あり…自然に恵まれている上にサカナはうまい。ミカンはうまい。暮らすのは最高の環境です。

さて、子供の頃の思い出といえば、夏休み、山でセミやクワガタを獲ったり、川でハヤをすくったりしたことです。夏休みの宿題には目もくれず、朝から晩まで山や川で遊んでいました。

家を出る時、母親が必ず手渡してくれたのが白いタオルでした。私はそれを首にまき、帽子をかぶり、棒網や虫とりカゴ、バケツを手に山や川に出かけたものです。

小学高学年の頃、一番疑ったのがクワガタ獲りです。家から自転車で30分ほど入った山道の近くにクヌギの林があり、そこはカブトムシやノコギリクワガタの“宝庫”でした。

クワガタを獲ろうと思えば、朝早く起きて出かけなければなりません。私は朝5時に目覚まし時計をかけ、友達と一緒に山へと出かけました。

その日は母親に内緒で出かけたため、タオルを持っていくのを忘れてしました。途中でそのことに気付き、引き返そうとしたのですが「まっ、いいや」と思い直して自転車を走らせました。

その日は“豊作”でした。クワガタの簡単な獲り方として、クヌギの木を下から蹴り上げるやり方があります。蹴るといってもサッカーボールのように足の甲や内側で蹴るわけではありません。足の裏でドンと蹴るのです。

要するに木に振動を与えることで、幹や枝にとまっているクワガタやカブトムシを落とすという作戦です。この日は私のキックの仕方がよかったです。たまたまクワガタがたくさん幹や枝にとまっていた日だったのか、1時間あまりで100匹以上の収穫がありました。

ところが「好事魔多し」とはこのことです。さあ、帰ろうとした瞬間、私たちはヤブ蚊の大群に襲われました。タオルを首に巻いていた友達はそれを手にとって応戦、被害を最小限に止めたのですが、手に何も持っていない私はもう刺され放題。棒網を振り回したところで何の効果もありません。

ほとんど泣きべそ状態で家に帰りました。蚊に刺されて腫れ上がった私の顔を見て、母親は「アンタ、宿題もせんとまたクワガタ獲りに行つってたんやろ!?’と激しく私を叱りました。そして続けました。「バチが当たったんよ。タオルを持たずにこっそり抜け出すから」

たかがタオル、されどタオル。今でも夏が近付くと、この悪夢が頭をよぎります。

## プロフィール

スポーツジャーナリスト。株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役。1960年、愛媛県八幡浜市生まれ。スポーツ紙や流通紙の記者を経てフリーのスポーツジャーナリストとして独立。オリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など国内外で幅広い取材活動を展開中。スポーツジャーナリストとして活動する一方、「地域」と「住民」を中心としたスポーツクラブづくりにも取り組んでいる。

## 『夏の日の悪夢』

スポーツジャーナリスト 二宮清純



オルは、カナディアンシールド(渓谷)に長距離カヌーをしに行く時、あるいは外国へバックパック旅行に出かける時、一番に荷物に入れるものです。

この数年、私のこのタオルは主にしたたり落ちる大量の汗を拭き取ってきましたが、旅をする度に、私は違った使い方を発見してきました。足を怪我した時の止血帯として使ったり、冷たいビールが温まらないように巻いておいたり、首の日焼けを防いだり、カヌーを担いで長い道のりを歩く時、カヌーと肩の間のクッションになりました。つまり、なくてはならない、役に立つ相棒なのです。

今や、かなりくたびれぼろになってしましましたが、どうしても捨てるとはできません。というのも、なじみの感覚が最も私をほっとさせてくれる部分…だからです。私の相棒、この小さなタオルは過酷な現代社会からのエスケープを意味するようになっています。

さあ、タオルを手にかけよう……

As you can see, my favorite towel is quite small - perfect for when you want to travel light!

# 歩けば、風の色

タオルのふしげな力



ありがたかった。

今治市を過ぎてまもなく、五十九番霊場国分寺をおまいりしたとき、門前でタオルの店を開いていた青年にハンカチタオルをいただいた。

お接待いただいたものはみな忘れないものばかりだが、このときの小型タオルはよく覚えている。あまり手触りがいいので、タオルを巻いた手で金剛杖を持ち、感触をたのみながら歩いた記憶がある。輪奈というのか、それが汗ばんだてのひらを快く包んでくれる。化織のハンカチではとても味わえないやわらかさがあった。

ありがとうございました。

お接待いただいたものはみな忘れないものばかりだが、このときの小型タオルはよく覚えている。あまり手触りがいいので、タオルを巻いた手で金剛杖を持ち、感触をたのみながら歩いた記憶がある。輪奈というのか、それが汗ばんだてのひらを快く包んでくれる。化織のハンカチではとても味わえないやわらかさがあった。

雨の日はしびれて痛むたなごろ

花柄タオル幾重にも巻く

道浦母都子の歌だ。

もの書きの常で、雨の日は使いすぎた手がしびれてくるのだろうか。その手をいたわるようにそっと花柄のタオルを巻く。手拭いではないし、包帯でもい

六十八歳の秋、四国のへんろ道を歩きはじめ、七十六歳の春に結願した。いわゆる区切り打ちで、東京と四国を何回も往復しては、海辺を歩き、山寺へおまいりする日々を送った。歩いた日を数えると全部で七十一日間になっている。若い人に笑われそうなのろさだが、のろのろ、ぶらぶらと歩いたおかげで得るところも多かつたし、充実感もあつた。

道々でたくさんのお接待をいただいた。

缶コーヒー、みかん、焼き芋、滋養飲料、百円玉、みんな

けない。空気の入り込んだもこもこしたタオルだからこそ、ひらをふわりと包んでくれるのだ。

お接待の小型タオルをのひらに感じながら、私はこの歌を連想していた。

歩いている遍路びとお接待をするという風習は、かなり古くからあつたらしい。善根を積み、お大師さまの利益を得たいという気持ちもあるだろう。身代わりの参拝を遍路びとに頼む気持ちもあるだろう。しかし、根本には、苦行をして歩く遍路びとに、なんらかの力を貸してやりたいという「利他」のこころがあるはずだと思う。「利他」のこころのある人を包みこむやわらかさであり、やさしさだ。それはタオルのやわらかさ、やさしさに通ずるものだ。

今治のタオルをお見舞いにおくつて喜ばれた、という話を親しくしている知人から聞いた。話をしてくれたのは愛媛県久万町に住む甲斐義孝さん、芳子さん夫妻だ。

タオルをおくつた相手は、芳子さんの姉、幸子さんで、その夫、正寿さんはガンで病床にあった。今治のタオルは病人の汗を拭くとき、とてもやわらかくていい、お湯をしぼってから

タオルに語り 小春日の父清拭す

俳諧『木語』を主宰する山田みづえの句だ。仙台で病床にある父を見舞い、父のからだを拭いているときの娘の思いが「語り」の文字に込められている。

山田さんが使ったタオルが今治のタオルであつたかどうかは知らないが、私のこころのなかでは、甲斐さんのお姉さんがいつていた「タオルが自分の気持ちを伝えてくれている」ということばと山田さんの「語り」ということばが強く結びついている。やさしくて、風合いがよくて、からだを触れるときに心地よさが残るタオルは、日常の暮らしをゆたかにするだけでなく、着る、敷くという用途をふくめて介護用品の花形にならうと思う。

お遍路のいちばんの楽しさは大自然に溶け込むときをもつことだ。自然融和のとき、といつてもいいし、



辰濃和男



辰濃 和男

1953年 朝日新聞社入社後、ニューヨーク特派員。  
論説委員。1975~1988年まで、「天声人語」を担当。  
現在、日本エッセイスト・クラブ専務理事。  
主な著書に『辰濃和男の天声人語』(朝日文庫)、  
『四国遍路』(岩波新書)等その他多数。

今治のタオルは病床にあった。今治のタオルは病床にあった。今治のタオルは病床にあった。

お湯をしぼってから



タオルの  
ふるさと紀行

# 中世石造物との戯れ

たわむ

地域史愛好家

大成

経凡

長円寺跡宝篋印塔  
大きなだけでなく、優美さも兼ね備えた、地方色豊かな越智式宝篋印塔。国重要文化財。

悠久のときをへて、石たちが語りかけるものゝ

地味でマイナーな中世石造物は、興味関心を示さない人にとっては、単なる路傍の石に過ぎない。

それでも、石たちは造立から六〇〇年余りのときをへて、

現代に生きる我々に何かを伝えようとしている…。

## 乃万地区に佇む、文化財の王様

石造美術、華やかなりし中世

今治が誇る文化財の一つに、県指定史跡の今治城がある。しかし、これを凌ぐ国重要文化財が、今治市郊外の乃万地区に数多く所在している。

近世城郭なら、全国にその遺構は数多く現存するが、十六基の重文・大型石塔が、一地域にまとまつて所在する例はあまり聞いたことがない。五輪塔・宝篋印塔・宝塔のそれら石塔は、なぜこの地に造立されたのか。また、それらに刻まれた銘文や石塔の特徴から、何が読みとれるのか。

石たちの囁きに耳を傾けてみたい。



乗禪寺石塔群  
一ヶ所の霊廟に、国重要文化財の五輪塔・宝篋印塔・宝塔が11基所在する。まさに、中世石造物のテーマパーク！

中世の石塔は、歴史的資料よりも、石造美術として取り扱われることが多く、とくに鎌倉末期から南北朝期にかけては、石塔のデザインが最も優美かつ雄壮さを極めた時期であった。そして新しい時代が下るにつれて、石塔は小型化し、デザインも退化の方向へと向かう。その背景には、石塔の大量生産・大量消費の到来があり、江戸後期にもなると、今日同様の直方体の石塔へとデザインは簡素化している。

## 王様のプロフィール

少なくとも中世においては、石塔を建立できる立場の人は特別で、造立する石工にも高度な技術がともなつた。このため、造立時期の年号を記さない石塔についても、ある程度形態を見れば、いつ頃の作例かは想像が可能である。乃万地区には、以下六基の石塔が銘文を刻む。



長円寺跡宝篋印塔  
大きいだけでなく、優美さも兼ね備えた、地方色豊かな越智式宝篋印塔。国重要文化財。



覚庵の五輪塔  
田園風景の中、2基の石塔が肩を寄せ合うように建っている。国重要文化財。

## 海道 地域そのものが優品ゾーン

今治に限っては、なぜだか乃万地区に優れた遺品が存在する。しかし周辺地域にも、国や県が指定する優

品が数多く見られ、不思議にも今治から三原・尾道にかけた「しまなみ海道地域」にそれらは分布している。そしてこの背景には、十三世紀末以降の西大寺流律宗教団の動きが知られ、教団は優れた寺院や石塔の造立を通して、影響力を強めていったという。特にその動きは、瀬戸内海沿岸地域に活発で、まさに時のハイテク技術が、今治にもたらされたことを物語る。そしてこの高度な技術を担った職人に、念心という石工が知られ、彼の作例が今治市郷本町の附属寺に見られる(正和元年(1312年)造立、在銘品で今治最古)。

しまなみ海道の遺品の多くは、石材が花崗岩という点が特徴である。これは、九州の国東半島の遺品が、安山岩や凝灰岩という点と大きく違っている。白砂青松の海岸は、花崗岩が長い年月をかけ風化したものとうが、造立当時の威容をそのままに、悠然と立ち尽すその光景には、造立にかかわった人々の「強い意思」を感じられる。



馬場の五輪塔 紀氏の娘のために造立された供養塔。国重要文化財。